

2.大谷の消された猿田彦神社

●出雲田中神社（波須波社）→大朝日岳山頂→大沼出島のラインを調べていて、一つ解せないことがあった。大沼出島 ⇨ 大朝日岳頂上のラインは出雲とは繋がっているのに、山形・宮城側は全くどことも繋がっていない。こんなにレアなラインなのに摩訶不思議である。特に菅原道真の子孫が移り住んで祭祀線だらけの大谷（朝日町）も通っているのに、神社仏閣ともまったくつながっていない。つながっていれば益々信憑性を得られるのだけれど…



●何度も大谷の地図を眺めていて、「そういえば!」と気づいたことがあった。

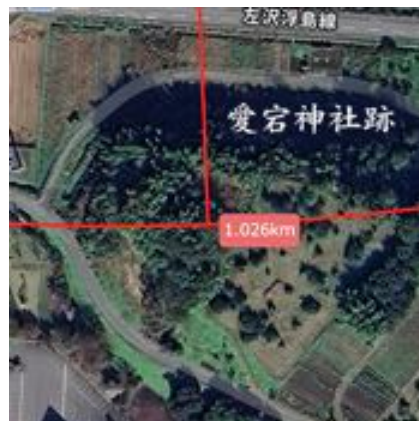
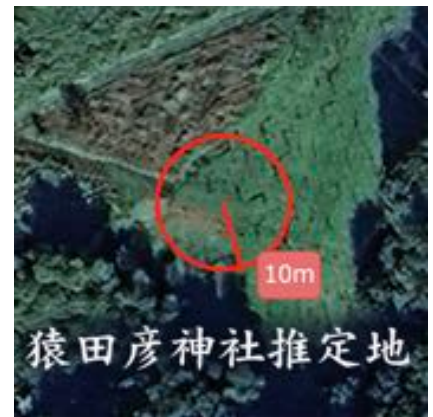
それは大谷から大江町にぬける県道9号長井大江線。ここを地元の皆さんは「さんだこえ（猿田越）」と呼んでいた。見学会に参加したときに、「猿田は崩れやすい土壌なのでザル田という意味だな」と、地元講師の方が仰っていたが「もしかしたら猿田彦神社があったのではないだろうか?」そんな気持ちがムクムク湧いてきた。



●最も峠に近いライン付近を地形図にしてみると、標高 237m の小さな山になっていてときめいた。これは猿田山ではないだろうか。残念ながらその頂上にはぶつからないが山裾付近を通っている。このライン上に神社があったのかもしれない。それにここは高台にあるから朝日連峰を拝むには絶好のポイントである。



●写真をよく見ると畑らしく軽トラ道が確認できる。もしかしたら参道跡かもしれない。村からも見上げられる位置でもあると考え、右写真の 24.134km にポイントを置いてみた。はたして、祭祀線は見つかるだろうか。
すると…

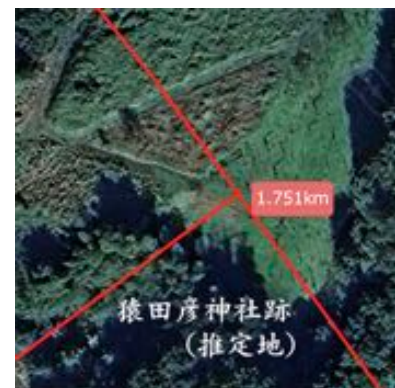


■北の天満宮跡 →→1.026km →→ 猿田彦神社推定地 ←←1.026km ←← 愛宕神社跡
 ←←1.026km ←←大圓寺跡

■朝日嶽 金輪寺・大圓寺・平圓寺

大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、弘仁年間（810～824）教旻が建立。周辺に大圓寺、平圓寺、朝日三十坊など宗教集落として成立していた。大沼浮島とともに朝日嶽信仰の一大拠点。朝日嶽先達とともに金峯山、熊野、高野山などにも引率、参詣する修行僧衆だった。しかし、天文年間（1504～21）坊社ともに焼失。山形県朝日町大谷

●見つかった。村内三ヶ所の寺社跡とつながった。北の天満宮は、村内に四つあった天満宮の一つ。明治の神仏分離令で白山神社に合祀されたが少し前までは小さな社は残っていた。愛宕神社も同様に合祀され白山神社へ合祀。どちらも由緒ある徳川幕府より安堵された御朱印社だった。詳しくは別頁「大谷の祭祀族菅原家を護っていた菱形祭祀線」を。大圓寺は三ヶ所あった朝日岳信仰の拠点寺の一つ。以前に祭祀線を調べてこの位置がわかった。詳しくは別頁「朝日嶽信仰 大谷金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこ？」を参照いただきたい。祭祀線が見つかりホッとした。さらに探してみた。



■猿田彦神社推定地 →→1.751km →→塞の神 ←←1.751km ←← 無量庵

■無量庵

無量庵の開山は、応永年間（1394～1428）と伝えられています。江戸時代は真中昌城院の末寺であったとされ、その後、大谷の永林寺の末寺となりました。ご本尊の阿弥陀如来座像は、江戸時代の寛文から元禄期の製作といわれます。朝日町指定文化財。※朝日町エコミュージアムサイトより抜粋 山形県西村山郡朝日町玉ノ井丙9 4



■塞の神 詳細不明

●これまで一度も祭祀線に乗ってこなかった塞の神とめずらしい阿弥陀如来が本尊の無量庵が繋がった。無量庵の創建は応永年間（1394～1428）なので、その時はまだ猿田彦神社はあったということになる。



●出雲口伝ではサイノ神は出雲族の最高神で、クナト大神と幸姫命の夫婦神とその子の猿田彦神そして龍神となっている。塞の神として祀られているということは、安倍一族が祀った古い社かもしれない。出雲然り、天孫族によりクナト大神と幸姫の夫婦神を隠された時代から、記紀にも登場する子の猿田彦神だけを祀るようになったのではないだろうか。この小さな社は大朝日岳のほうに微妙に傾けて建てられている。大朝日岳も古代は塞の神だったのだろう。



■柳川 熊野神社 →→10.044km →→ 猿田彦神社推定地 ←←10.044km ←← 弁才天堂

■柳川熊野神社

祭神/伊邪那岐尊 伊邪那美尊 承平年中 (921~938) 青柳村に優姿塞宝泉という者があり、紀伊熊野大神を崇敬し遠路参詣すること二十一回、年老いて血気衰え参詣できず、少し仮寝の間大神が夢の中に「汝精誠である。二世の懇願速やかになるだろう」と勅宣があり、宝泉夢から覚めて感涙し、日を重ねて郷里に帰り朝夕の謹行怠らざる時、夢のように幻のように空中に声があり「迺乃沢大里の辺必ず瑞がある」との神勅があつて、宝泉が直ちに行くと石の上に紀州熊野の宝印及び柳葉一葉があつた。宝泉は、これは熊野権現の影向であると社を建てこれを祭鎮した。天徳年中 (951~957) 当国守護修理大夫当社に祈願するに感応著明であつた。別当定宝院・大宝院で支配し代々修行を以て奉仕し、大江氏・最上氏の崇敬厚く二十石三斗四升の社領を寄進し、徳川氏も元の如く朱印を以て寄進した。享保四年 (1719) 社殿を再建、**明治二年の火災で類焼し大谷村天満神社の神殿を譲り受け再建し**、明治四年熊野大権現を熊野神社と改め、明治七年村社となり、昭和三十二年に本殿を移築し拝殿を新築した。※2025年拝殿を取り壊し本殿のみになった 西村山郡大江町柳川 1592



■弁財天堂 詳細不明 祭神/弁才天、毘沙門天、大黒天

●柳川 熊野神社は焼失した大谷天満宮の境内社の一つを譲り受け本殿にしている。その立派さを見ると大谷天満宮がどれだけの規模を誇っていたかが想像できる。松江の熊野神社は元々出雲東王家 富家の創建である。弁財天堂も出雲系の神々でつながる。



■大沼六地藏 →→ 6.272km →→ 猿田彦神社推定地 ←← 6.272km ←← 平塩熊野神社

■大沼六地藏

大沼の六地藏尊は六体地蔵ともいい町内では珍しい。台座の上に約 40 センチの円柱が立ち、上部 25 センチの所に六体の地蔵様が仲良く刻まれている。どの顔も童顔あどけない。全高 180 センチ。安山岩できている。子育て地蔵で、安産、縁結び、交通安全の守護仏として昔から崇敬の的となっていた。戊辰戦争の折、官軍が大沼に乱入し小清に進軍した時にこの六地蔵は倒されそのままとなっていた。別当白田家の夢枕に地蔵様が立ち、明治 37 年に復興されたと伝わる。 山形県西村山郡朝日町大沼
※サイト「あさひまちエコミュージアム」より抜粋



■平塩熊野神社

社伝によれば、養老 5 年（721 年）行基により熊野三社を勧請して開山し、行基の高弟勝覚が別当として補佐したという。前九年の役に当たり、源頼義・義家が戦勝を祈願し、康平 5 年（1061 年）田畑・山林と鏡二面を寄進した。また応徳 3 年（1086 年）後三年の役の時再建されたという。

平安時代境内地に経塚が築かれ、出土した石製八角柱形石鐘から康治年間（1142 年～1143 年）のものだと判明している。元々は熊野三所権現にならい、護摩堂・内御堂・如法堂に分かれていたが、明応年間（1492 年～1501 年）に現在地に合祀された。

山形県寒河江市平塩 1

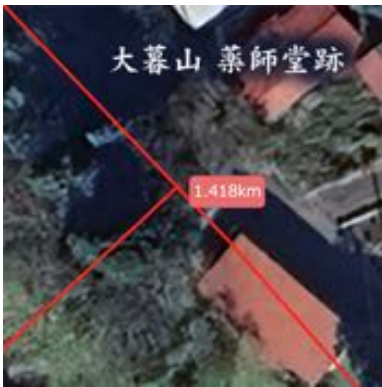
●また熊野神社とつながった。大沼六地蔵は小さな石塔だが、平安時代に平安京鬼門ライン強化のために建てられたものだった。別頁「東善寺瑠璃殿(新宿薬師堂)の役わり」をご覧ください。祭祀線は他にもいくつか見つけたが、位置がアバウトなので確かめたら追記することにする。

●最後にとっても重要な祭祀線が見つかったのでまとめて終わりとしたい。

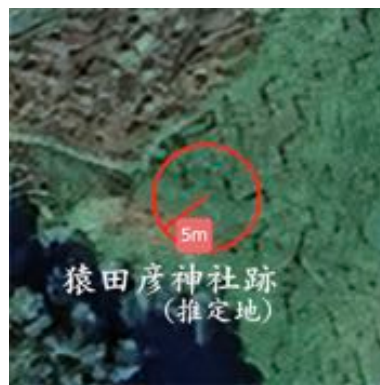
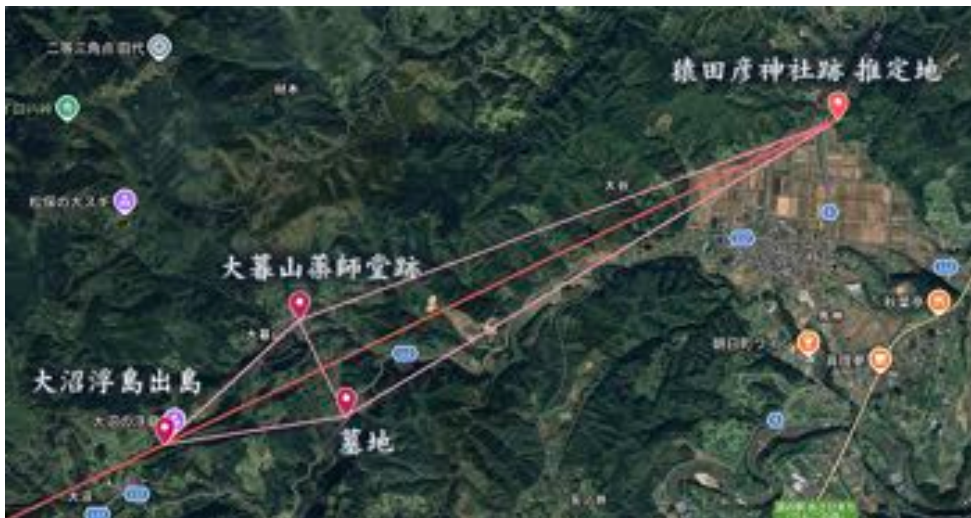
実は、もともと大沼浮島を守っていたのは、出雲族子孫の安倍一族かもしれないと推測している。安倍一族が物部により北に追われた時に、阿部さんが多く住む大暮山の人たちが残ったのではないかと思うのである。という仮定のもと見つけていた祭祀線があったが、いかんせん墓地だった。墓地も祭祀線の大切なポイントとなることは分かっていたが、墓地のどこに中心があるのか分からず保留していた。



■大暮山薬師堂跡 →→ 1.418km →→ 大沼浮島 出島←← 1.418km ←← 大暮山墓地

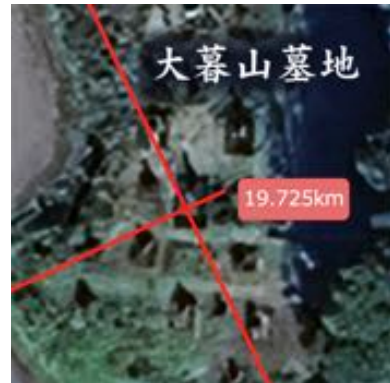
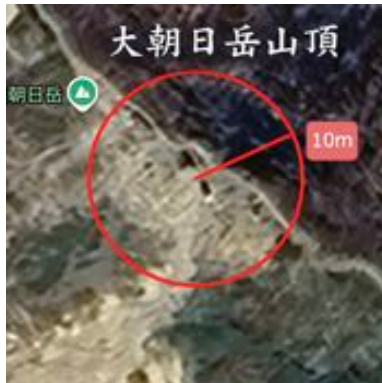


●ところが、この薬師堂跡とこの墓地の一つの墓石に、大谷の猿田彦神社跡（推定地）が祭祀線で見事につながったのである！



■大暮山薬師堂跡 →→ 4.431km →→ 猿田彦神社跡（推定地）←← 4.431km ←← 大暮山墓地

●ということは、もちろん…



大暮山薬師堂跡 →→ 19.725km →→ 大朝日岳山頂 ←← 19.725km ←← 大暮山墓地

●大朝日岳山頂とも三角祭祀線はつながる。居ても立ってもいられなくなり、ひとつ走りその墓地を確認しに行ってみた。すると、この辺りが盛り土した塚のように盛り上がっていて、一番高い所にあるお墓だった。おそらく安部一族のリーダー的存在の墓ではないだろうか。もしくはなにかお堂があったのかもしれない。わざわざ集落から離れた場所に墓地を作ったのはこの祭祀線のためなのだろう。

まとめ

●大谷に猿田彦神社はたしかにあった。そして、あの場所でまちがいはない。おそらく北条執権時頼に朝日岳信仰専念封じの時に消されたのではないだろうか。

●大朝日岳 ⇔ 大沼ラインは猿田彦の神社で挟まれていたことがわかった。

猿田彦神を祭神にしている神社は、天孫族の時代になり、塞の神を祀れなくなり、三神（クナト大神、幸姫命、猿田彦大神）のうち記紀に登場する子神の猿田彦神だけを仕方なく祀ったのではないだろうか。出雲族の古い祭祀線は、元々はすべてサイノ神でつながっていたのではないだろうか。

●大沼を守っていた一族が大暮山地区の阿部（安倍）一族なことも信憑性が見えてきた。大暮山の阿部さんは大彦の血を濃く継ぐ方々かもしれない。ロマンは溢れてくる。



■出雲 田中神社（祭神/猿田彦神）⇔ 大朝日岳山頂 ⇔ 大沼浮島出島 ⇔ 大谷猿田彦神社跡

●猿田彦神社跡は個人所有の畑で入れなかった。いつか許可を得て見せてもらおうと思っている。朝日町教育委員会による発掘が（金輪寺・大圓寺・平圓寺とともに）行われることを祈ってる。





2026年4月6日 竜天太陽記